

## 審査にあたりて

第44回市美展「書の部」は、出品総数146名で現今の世情からおしあはれば、納得せざるを得ない数字ではなかろうか。

人間はどんな境遇であっても一生懸命生きる人は輝くという。今を全力で生きてゆく、人生とは、一生歩き続ける巡礼のようなものであるという。数多くの人びとと出逢い、またある時は袖すり合うご縁で、その人の数の多い程しあわせである。「書」とは人間を学び続けてゆく道である。

人は何かを得ようとすれば、今手にしているものを捨てるぐらいの覚悟をしなければならない。  
「一筆また一筆に神宿る。」自分の本当にやりたいものをやる。

書の世界に原理原則はない。おのその人の人間、その人の人生の生き様が原理原則である。書は中国古来より精神性の在り様を追求する視覚芸術である。視覚と同時に精神性を併せ筆を持ってみたい。誰からか教えてもらうものではなく、自ら学びとる姿勢がもっとも大切ではなかろうか？

小さな自分ではあるが、自分の将来像を古典の深奥の中に求め、新しい分野の中に自分自身をゆだね「一期一会」一枚の紙に立ち向ってみたい。

2015年2月4日

審査員長 村上皓南

## 第44回 書の部入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	七言絶句	村越紫苑	平
いわき市議会議長賞	島崎藤村の詩	阿部嶋泉	平下平窪
いわき市教育委員会教育長賞	七言詩	山川榮雪	平

### 《佳作》

いわき市文化協会会长賞	小臣單解	樋田静流	錦町
福島県報徳社賞	しらつゆ臺麗子	遠野町滝	
	宿河西務詩	丹野清波	小名浜岡小名
美術館友の会賞	王維詩	関根精香	中之作
有限会社トーカイ賞	敦煌漢簡	小野寺香玉	泉玉露
洛	黄庭堅詩	小林峯玉	湘南台
	高祖本紀	馬上溪花	平中山
遠藤一心堂賞	杜甫詩	金成大雅	中央台
	臨孔家坡前漢簡	伊藤松茄	平赤井
マルナカ表具店賞	七言詩	薄葉志千	平上平窪
株式会社坂本紙店賞	よろこび	井戸川保子	郷ヶ丘
ホープ商事株式会社賞	陶淵明詩	小野泰山	小名浜
有限会社磐植賞	七言詩	片寄光月	平
キヨ一和賞	吳昌碩詩	新妻心葉	郷ヶ丘
書優会賞	杜甫詩	櫛田華堂	勿来町
アートスペース泉賞	項忠詩	吉村翠苑	平
株式会社風雅プランニング賞	劉嗣綰詩	吉田藍仙	小名浜
	夏初遊桜祠	根内千寿	好間町下好間
	臨傅山	鈴木多佳	平上荒川
いわき書道協会賞	杜甫詩	上遠野	鹿島町米田
	春	田中リョウ	平
	臨虎溪山前漢簡	柴田晃奈	平
	水静月無波	吉田澄心	中央台
	五言詩	金成文子	江名
	陳輔詩	長久保萩泉	勿来町
	郭元振詩	鈴木江華	平中山
	臨高野切第一種	澤坂千蓼	平
	三言句	星野成子	自由ヶ丘
青少年賞	臨雁塔聖教序	田中桃子	平

※青少年賞は、20歳未満を対象に若手育成を目的として設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名選定する。

## 審査所感

今年は45回の節目の年になった。書の部は第5回からの参加だったので実質41回目の展示だ。一時激減した書の部の出展は、昨年よりわずかではあるが9点の増となり、特に高校生の皆さんの活躍に審査員一同齊しく、嬉しい出来ごとだった。このことは、膠着しつつある書の作品評価の、ある種の覚醒剤的な役割を果たした部分もあることとして、特に記そうと思った。そして、若人諸君の爾後に大いなる期待を持てることを確信した次第だ。

さて、本題に入るのだが、全体の調子は好調とはいえず、特に目ざましいと思われる作品は多くはなく、時を重ねた作家、新しい行動の見られる作家達が結果として三賞を獲得したのだと思う。“初心忘るべからず”は既に使い古された言葉なのだろうが、何が初心であるのかが曖昧になってきていることを、考え直さねばならないと思う。今回から50回展を迎えるまで、招待作家達によって、様々なパフォーマンスを行い、50回の記念展には熟慮した特別展を考えている。詳細について今は触れないが、書というものを考えるとき、熟練と思惟とが不可欠のものであることに思いが至る。書においての個人的イマジネーションは樂に出るものではないこともお互いに再認識したいと思うのだ。

結びとして、仮名、篆刻、若人達に瞠目する作品が出たことを讃え、次の作品に待つこと大である。皆さんと共に栄えあるこの展覧会を喜びあおう。

平成28年2月3日

審査員長 石川 大渢

## 第45回 書の部入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	金葉集のうた	井戸川保子	郷ヶ丘
いわき市議会議長賞	永平広録	春日賢治	内郷高坂町
いわき市教育委員会教育長賞	杜甫詩	吉村翠苑	平

### 《佳作》

いわき市文化協会会长賞	浦源	詩	丹野清波	小名浜岡小名
福島県報徳社賞	陶淵明	詩	村越紫苑	平
	七言律	詩	片寄光月	平
美術館友の会賞	臨赤壁賦	卷	菜花琴雪	四倉町
有限会社トーカイ賞	薛瑄	詩	伊藤松茄	平赤井
洛	桜		臺麗子	遠野町滝
	一瞬		藤田桂雪	四倉町
遠藤一心堂賞	北原白秋	詩	西恵美子	四倉町
	臨開通褒斜道刻石		松本恵美子	平
株式会社坂本紙店賞	劉同升	詩	山野邊素心	平谷川瀬
有限会社磐植賞	吳昌碩	詩	新妻心葉	郷ヶ丘
キヨ一和賞	月下独酌	馬場楊苑	郷ヶ丘	
書優会賞	文公の新政	馬上溪花	平中山	
アートスペース泉賞	秋の音羽山	田中リョウ	平	
株式会社風雅プランニング賞	七言律	詩	山川榮雪	平
	藤克恭	詩	吉田藍仙	小名浜
	今さら	に	小林きみ子	平沼の内
いわき書道協会賞	杜甫	詩	笛田祐甫	勿来町
	五言絶句		薄葉志千	平上平窪
	杜甫	詩	上遠野遼	鹿島町米田
青少年賞	集字聖教序	臺緋里	常磐下湯長谷町	
	五言絶句		鈴木弘明	平下平窪

※青少年賞は、20歳未満を対象に若手育成を目的として設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名選定する。

## 審査所感

第46回市美展「書」の部の出品者は、招待作家21名と青少年6名を含め、合計137名で、前回展より減少の一途をたどっている。

出生率が減っている世情から、書の世界もこれに倣ってもむべなるかなと、自分自身をなだめ納得せざるを得ない現状ではなかろうか。

さて本題に入ろう。「書」とは？ 毛筆を持って、墨汁を含ませ、心から先に雅箋紙に入ってゆく。その線が紙空を満たし文字となって物語りをつむんでゆく。それを称して書という。書は人の心の表われであり、その気高さが喜びであり、人々の感動を呼び起し生命の躍動を伝える、生命的の讃歌である。

論語の一節に曰く「知・好・楽」。知っているだけの人は、それを好きな人には及ばない。好きな人は、それを楽しんでいる人には及ばないと言う意味である。つまり、あなたが楽しめることが一番なのだ。とはいいうものの決して楽な道ではない。やると決めて後悔しない様覚悟しなければならない。技倆を捨て風雅の心に遊ぶ。

人生は、自身の自作自演であって、他人のせいではない。

禪の言葉で表わすならば「筆を持って死をふり払い、永遠の生命を体内に包含す、無限の筆はいつも古代性を伴い、古典の香る中に自己の存在感を同伴しなければならない。」

生きることは燃えることなり。たまには人生の根源など筆に託して、雅箋紙に向ってみようではないか。

平成29年2月8日

審査員長 村上皓南

## 第46回

## 書の部入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	静 齐 銘	樋田 静流	錦町
いわき市議会議長賞	臨 天 長 前 漢 簡	伊藤 松 茂	平赤井
いわき市教育委員会教育長賞	旅	井戸川 保子	郷ヶ丘

### 《佳作》

いわき市文化協会会长賞	臨 傅 山	菜花琴雪	四倉町
福島県報徳社賞	徐 渭 詩	山川榮雪	平
ク	夕 燒 空 よ	阿部嶋泉	平下平窪
美術館友の会賞	齊 寵 辱	春日賢治	内郷高坂町
有限会社トーカイ賞	杜 甫 詩	村越紫苑	平
洛 賞	韓 奕 詩	丹野清波	小名浜岡小名
遠藤一心堂賞	張 元 昇 詩	長久保萩泉	勿来町
ク	袁 椿 詩	片寄光月	平
株式会社坂本紙店賞	春 の 足 音	臺麗子	遠野町滝
有限会社磐植賞	李 青 蓮 詩	閑根精香	中之作
キヨ一和賞	西行の歌をかく	西 恵美子	四倉町
書優会賞	杜甫詩二首	吉村翠苑	平
アートスペース泉賞	鄧完白語句	馬目桜巣	泉もえぎ台
株式会社風雅プランニング賞	章 有 渥 詩	鈴木暎月	錦町
ク	臨元永本古今集	猪狩晴美	四倉町
常磐工業株式会社賞	聲	藤田桂雪	四倉町

### 《特別賞》

青少年（洛）賞	徐 渥 詩	鈴木弘明	平下平窪
---------	-------	------	------

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で、20歳未満の出品者を対象とする。

## 審査所感

出品総数131点のうち、招待作家を除いた110点ほどが審査対象である。受賞は、一般が18点、高校生が1点となった。受賞作品は、漢字・仮名・漢字かな交じり書・篆刻があり、創作また臨書と多彩な内容であった。多数のなかから受賞された各位には、心よりお祝いを申し上げる。また惜しくも受賞を逃された方も少なからずあって、これは紙一重の僅差であった。第47回を迎えたいわき市民美術展にふさわしい力作が多数応募されたことは、市民の「書」を学び愛好する層の厚さの証であり、指導の先生方や先達の先生方の熱心なご指導による歴史と伝統の賜物と存じ上げ、敬意を表する次第である。

さて、第2部（全紙2分の1サイズ以内）の出品数は60余点の額作品と軸作品のうち、篆書・隸書・楷書・仮名・篆刻・刻字があったが、おおくは行草書であった。市美術展にふさわしく鍛度の高いものもあったが、もう少し練習すればと思うものもあった。はじめは誰しもが初心者である。「書」はどれだけ筆を動かしたか、つまりは練習の積み重ねが作品に出るものである。作品は書くことによって、かならず上達するし自信にもなる。そして、それが紙面にあらわれるのである。失敗を恐れず、何枚も何枚も書いて欲しい。努力は、かならず報われる。努力なくして、成長なし。これは自分への言葉でもある、ともに成長しましょう。

つぎに第1部（縦8尺、横8尺以内）の出品数は40余点の額作品と軸作品のうち、金文（青銅器に鋳込まれた文字）・隸書・楷書・仮名がそれぞれ少数で、ほかは行草書であった。大きな紙面を書こうとする人達なので、作品はいずれも甲乙をつけがたい充実した内容である。自己の作品の研究はもちろんあるが、他者に学ぶことも必ずあるはずである、会場の一作一作ごとの長所を見てほしい。作品を高めることは容易なことではない。それは自己との戦いであり、自分の世界で満足していくは成長は望めない。幸い「書」には先人の名品、つまり古典がいくらでもある。「書」とは行き着くことがない世界であり、それが苦しくもあるが楽しいのである。そして、満足できずに、また筆を持ってみようと思うのである。満足は敵である、これは自分への言葉でもある、ともに成長しましょう。

さいごに青少年8点の額作品と軸作品のうち、臨書5点、創作3点であった。次代を担う人たちなので大いに期待したい、がんばって書いて欲しい。

上位3賞について。教育長賞は仮名の創作作品である。2尺7寸横の料紙に、よく筆が動き回転が効いている。後半の運筆を控えめにすると余韻が残ると思う。議長賞は漢字かな交じり作品である。2尺7寸縦の紙面に、運筆がよく慣れて停滞がなく、紙の白がうつくしい。惜しくも第2席となったが次作に期待したい。市長賞は金文の臨書である。2尺7寸縦の紙面に、金文の鍛えられた運筆と文字の配置の紙面構成は見事で、今回の最高賞とした。

平成30年2月7日

審査員 遠藤昌弘

## 第47回

## 書の部入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	大孟鼎之一節	樋田静流	錦町
いわき市議会議長賞	島崎藤村の詩	阿部嶋泉	平下平窪
いわき市教育委員会教育長賞	鶯	臺麗子	遠野町滝

### 《佳作》

いわき市文化協会会长賞	杜甫詩	片寄光月	平
福島県報徳社賞	楽神曲	丹野清波	小名浜岡小名
美術館友の会賞	新古今集のうた	西恵美子	四倉町
有限会社トーカイ賞	抱朴子守靜	春日賢治	内郷高坂町
遠藤一心堂賞	元好問詩	木田涼祥	中央台
ク	淮陰侯列伝	馬上溪花	平中山
株式会社坂本紙店賞	臨張遷碑	小野惠風	平中山
有限会社磐植賞	臨虎溪山前漢簡	佐藤景苑	平
キヨ一和賞	厲鶚詩	山野邊素心	平谷川瀬
書優会賞	李白詩	大平峰生	佐糠町
アートスペース泉賞	李白詩	山川榮雪	平
株式会社風雅プランニング賞	杜甫詩	吉村翠苑	平
ク	李商隱詩	笹原東邨	中岡町
ク	邑師道暈等釋迦像記	福岡憲子	内郷綏町
常磐工業株式会社賞	李嶠百詠断簡	飯島史帆	好間町上好間

### 《特別賞》

青少年賞（西田アトリエ賞）	臨曹全碑	木田みのり	好間町中好間
---------------	------	-------	--------

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で、20歳未満の出品者を対象とする。

## 審査所感

第48回を迎えた『いわき市民美術展覧会』書の部は、昨年に比べて若干の出品者の減少はあったものの、作品の内容としてはレベルの高いものが集まつたように感じた。出品総数115点のうち、招待作家23点を除いた91点が審査対象である。上位3賞と佳作13点、青少年賞1点の決定に至るまでには、2時間近くを要する慎重選考となった。2階の左右の展示場を担当者2名の方と幾度もめぐることとなり、足を煩わせることになった。それだけ出品作品の内容が伯仲し拮抗していた証といえよう。審査員としては苦しい選考であったが、たのもしい限りである。

さて第2部(全紙2分の1サイズ以内)の出品数は36点の額作品と軸作品のうち、金文(青銅器に鋳込まれた文字)・隸書・楷書・仮名・漢字かな交じり書・篆刻があったが、おおくは行草書であった。内容的には鍛錬度の高いものもあったが、もう少し練習すればと思うものも見受けられた。

つぎに第1部(16平方尺以内、縦8尺横7尺以内)の出品数は51点の額作品と軸作品のうち、隸書・楷書・仮名がそれぞれ少数で、ほかは行草書であった。作品はいずれも甲乙をつけがたい充実した内容であったが、書かれた文字の構造に疑問を感じるものを見受けられた。誤字ではないが、古典にもっと良い字姿があるのではと作品を前にして想いを抱いた次第である。書の作品は古典という背景が見えなければ、単なる遊芸に堕してしまう。それは本人にとって満足なのかもしれない、また楽しいのかもしれないが、他者から見れば共感や理解を得ることは難しいであろう。ぜひこの点を一考願いたい。

青少年4点の額作品と軸作品のうち、臨書が多数を占めた。次代を担う人たちなので大いに期待したい、がんばって書いて欲しい。

上位3賞について。教育長賞は2尺7寸、縦3行。行草による李白詩の創作作品である。鍛錬され充実した筆跡によって紙面に生気が横溢している。思い切った運筆は、作者の日頃の練習と自信の現われであろう。議長賞は仮名の創作作品である。「鶯」と題されているが、落款にある通り万葉歌と他二首を書いている。2尺8寸横の紙面に、本文17行、落款2行。紙面前半の静的変化と後半の動的変化はよく対照して作品を立体的に見せている。市長賞は2尺8寸、縦3行。虎渓山漢簡の臨書である。前漢時代の隸書の肉筆資料であるが、幅2センチほどの木簡に書かれた文字を解釈し、筆跡として再現したもので大変な労作である。作品に見られる筆鋒の開閉の大膽さと切れ味は、何よりこの作品を魅力あるものにしている。創作をありがたがる人がいるが、臨書であっても新たな視点や見解によってオリジナリティー豊かな臨書表現となるのである。この点を高く評価して、今回展の最高賞とした。

平成31年2月6日

審査員 遠藤昌弘

## 第48回 書の部入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	臨虎渓山前漢簡	佐藤景苑	平
いわき市議会議長賞	鶯	臺麗子	遠野町滝
いわき市教育委員会教育長賞	李白詩	片寄光月	平

### 《佳作》

いわき市文化協会会长賞	杜甫詩	金成大雅	中央台
福島県報徳社賞	杜甫詩	吉村翠苑	平
〃	吳昌碩詩	新妻心葉	郷ヶ丘
美術館友の会賞	戦国策	馬上溪花	平中山
有限会社トーカイ賞	李青蓮詩	大平峰生	佐糠町
遠藤一心堂賞	陸游詩	菜花琴雪	四倉町
〃	みよし野は	小林きみ子	平沼ノ内
株式会社坂本紙店賞	袁凱詩	伊藤松茄	平赤井
有限会社磐植賞	錢起詩	田中京華	小名浜
キヨ一和賞	雲	西恵美子	四倉町
書優会賞	百人一首	村上春香	常磐関船町
株式会社風雅プランニング賞	龍吟虎嘯・滑疑之耀	春日賢治	内郷高坂町
〃	梅堯臣詩	根内千寿	好間町下好間

### 《特別賞》

青少年賞(西田アトリエ賞)	臨雁塔聖教序	井上桃華	平下荒川
---------------	--------	------	------

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で、20歳未満の出品者を対象とする。

## 審査所感

第49回いわき市民美術展覧会、書の部の審査を終えて、一言所感を述べさせて頂きます。

今年は、昨年の水害等の被害の影響の為、出品数が減少したとの事、誠に残念でした。

審査に当っては、公正を第一に客観的視野を心掛けました。結果として、篆隸楷行草そして仮名作品選び、更に形式も少字数、多字数、刻字作品と広く入賞作品を選びました。

順位を決めるに当って、慎重にその崩しや選文を見て行きますと、惜しくも誤字が散見されました。厳しくすると対象作品が無くなってしまいますので、その部分は寛容としました。

上位の方を数人、個々に評を書きます。

○馬上溪花さん 木簡風の隸書。完成度も高く、このままでも中央展に通用するレベルでした。

○丹野清波さん 正攻法的書風。普通に書くのが一番難しい。今回の作、自然に書けています。

○藤田桂雪さん 淡墨少字数作品。懐の大きさを感じます。

○金成大雅さん 小粒な造像記風楷書。終始、緊張感が漲っています。

○西恵美子さん 全体構成に工夫された仮名ちらし作品。用紙の色も雰囲気を出しています。

○河治奇雲さん 風雅な刻字作品。その作風に年輪を感じます。

○佐藤景苑さん 木簡の臨。大らかな筆使い、豊かな古代人の精神が表われています。

○阿部嶋泉さん 島崎藤村の詩を書いた調和体。リズム感が楽しい作。

○上遠野遊さん 半切作品ながら完成度は高い。次回は大作に挑戦して下さい。

出品作全体としては、個性を主張した作品が多く楽しめましたが、それぞれにより完成度を高める勉強・工夫をお願いします。また、誤字や崩しの間違いが無い様、念には念を入れての出品をお願いします。

令和2年2月6日

審査員 吉澤鐵之(書家)

## 第49回

## 書の部入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	廉頗蘭相如列伝	馬上溪花	平中山
いわき市議会議長賞	陳縉詩	丹野清波	小名浜岡小名
いわき市教育委員会教育長賞	靜慮	藤田桂雪	四倉町

### 《佳作》

いわき市文化協会会长賞	杜甫詩	金成大雅	中央台
福島県報徳社賞	新古今集より	西恵美子	四倉町
福島県報徳社賞	長樂萬年	河治奇雲	山玉町
美術館友の会賞	臨孔家坡前漢簡	佐藤景苑	平
有限会社トーカイ賞	島崎藤村の詩	阿部嶋泉	平下平窪
遠藤一心堂賞	野泊	上遠野遊	鹿島町米田
〃	杜甫詩	吉村翠苑	平
株式会社坂本紙店賞	杜子美詩	田中京華	小名浜
有限会社磐植賞	新古今和歌集	村上春香	常磐関船町
キヨ一和賞	棧道	古和口瑛香	中岡町
株式会社風雅プランニング賞	連雲勢	斎藤福庵	郷ヶ丘
〃	ほのぼのと	小林きみ子	平沼ノ内
ガスワン賞(常磐共同ガス株式会社)	天上海謠	小野惠風	平中山
ひまわり信用金庫賞	絶好繁二月天濠	新妻心葉	郷ヶ丘

### 《特別賞》

青少年賞(西田アトリエ賞)	郎士元詩	片岡瑞恵	渡辺町田部
---------------	------	------	-------

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で、20歳未満の出品者を対象とする。